

新型コロナウイルス感染症の農林水産業への影響等について

〔令和2年8月19日
農林水産総務課〕

1 新型コロナウイルス感染症による影響（令和2年8月11日現在）

(1) 農業

ア 米

《主食用米》

- ・主食用米は、中食・外食の需要の減少に加え、家庭用の需要も鈍化していることから、令和2年6月時点での民間在庫量が増加しており、米価の下落が懸念される。

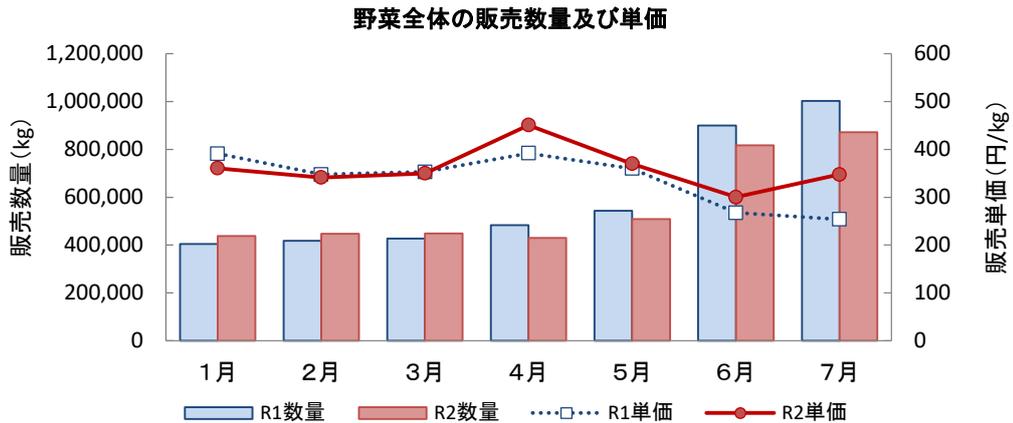
《酒造好適米（酒米）》

- ・例年、3月末までには売り先が確保されているが、今年産については、7月末でも約450t（生産量の約15%）の売り先が確保されておらず、来年以降の生産への影響が懸念される。

イ 野菜（広島市中央卸売市場（中央市場）：県内産）

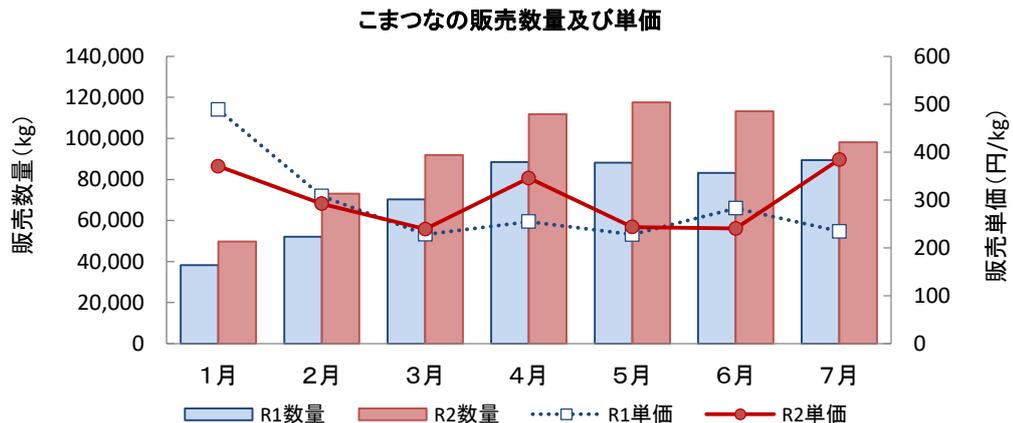
《野菜全体》

- ・県内産の野菜については、4月の低温や梅雨の長雨の影響等で販売数量が減ったことや、消費者向けの小売りが堅調であったことなどにより、前年より高値傾向で推移している。



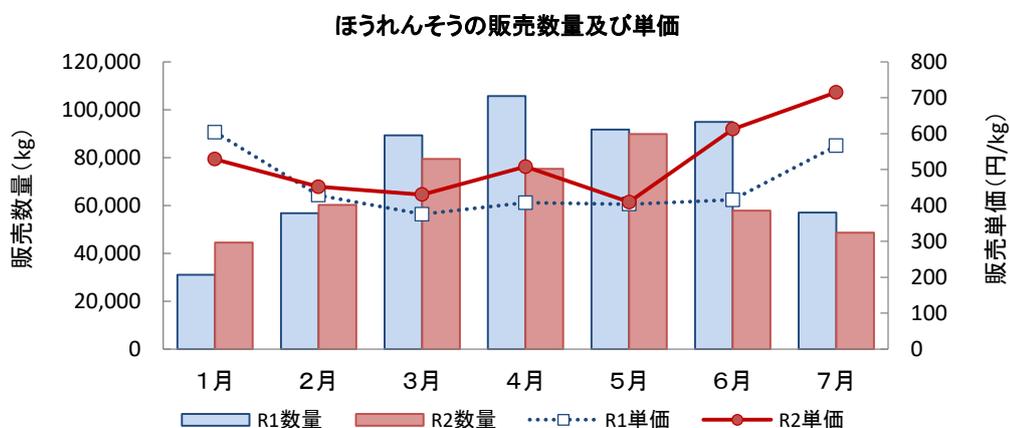
《こまつな》

- ・こまつなは、栽培面積の拡大により、販売数量が増加しているため、1月や6月の単価は前年より安値であったが、4月は消費者向けの小売りが堅調であったこと、7月は梅雨の長雨の影響で他の産地からの入荷が減少したことなどにより、前年より高値となった。



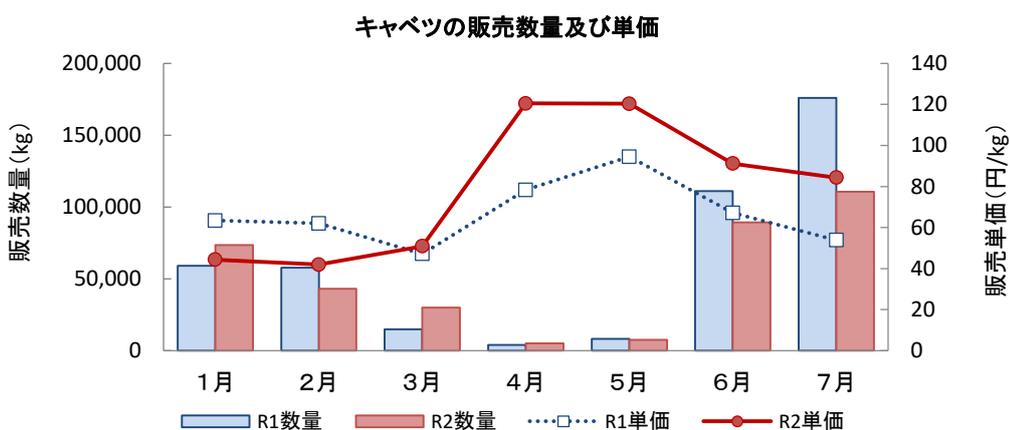
《ほうれんそう》

- ・ほうれんそうは、暖冬の影響で出荷が前進したため、1月は販売数量が増加し、単価は低下していたが、2月以降、徐々に販売数量が減少し、前年よりも高値で推移した。
- ・5月には販売数量、単価とも前年並みとなったが、6月以降も、こまつなの生産に転換したことなどにより販売数量が減少し、前年よりも高値で推移している。



《キャベツ》

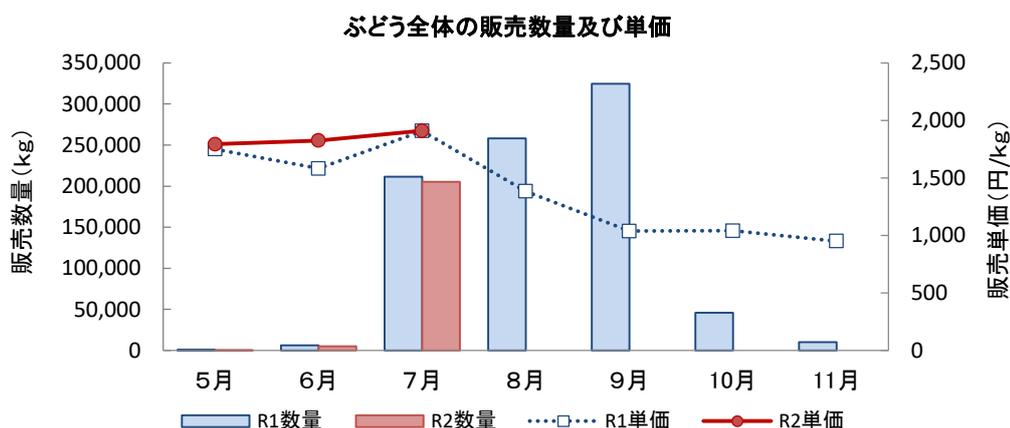
- ・キャベツは、6月から庄原市、北広島町、世羅町等で生産されたものの販売が開始された。
- ・4月の低温や梅雨の長雨の影響で販売数量が前年よりも減少していることなどから、前年よりも高値で推移している。



ウ 果実（広島市中央卸売市場（中央市場）：県内産）

《ぶどう》

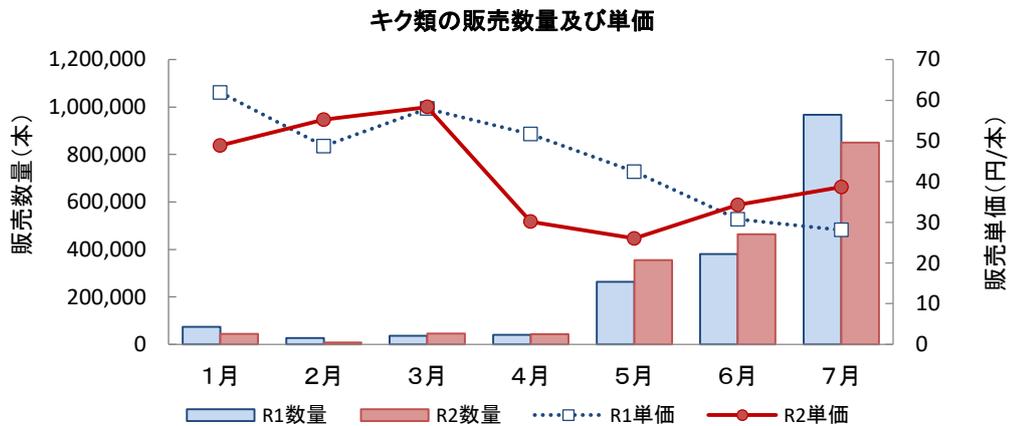
- ・ぶどうについては、5月からデラウェア、6月からピオーネの販売が開始された。
- ・7月から本格的に販売が開始され、販売数量、単価とも前年並みとなっている。



エ 花き（広島市中央卸売市場：県内産）

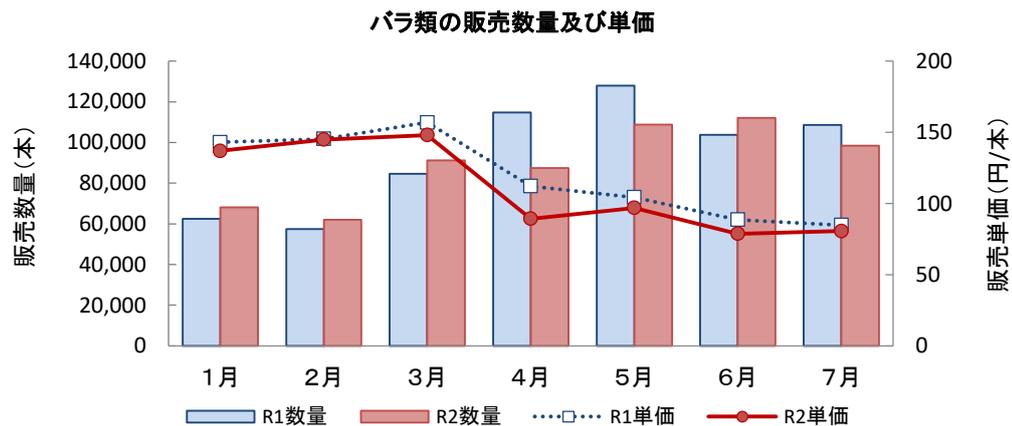
《キク》

- ・キクは、冠婚葬祭の規模縮小等から需要が減少したことにより、4月、5月の単価が低下していたが、6月は前年並みに回復し、7月は前年よりも高値となっている。



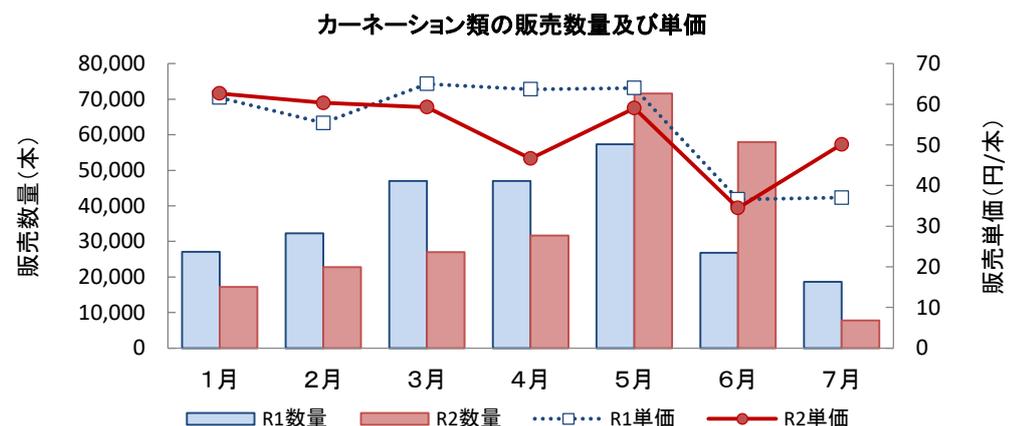
《バラ》

- ・バラは、イベントの中止等から需要が減少したことにより、4月の単価は20%低下した。
- ・5月の単価は前年より7%低下と回復傾向にあったが、6月は11%低下、7月も5%低下と、依然、前年よりも安値で推移している。



《カーネーション》

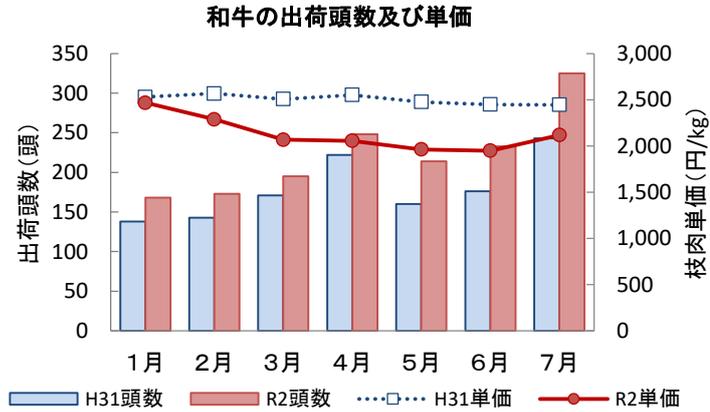
- ・カーネーションは、イベントの中止等から需要が減少したことにより、4月の単価は前年より27%低下した。
- ・5月の単価は前年より8%低下と回復し、7月には販売数量が減少したことも要因であるが、前年よりも高値となっている。



(2) 畜産業

ア 和牛（広島市中央卸売市場食肉市場）

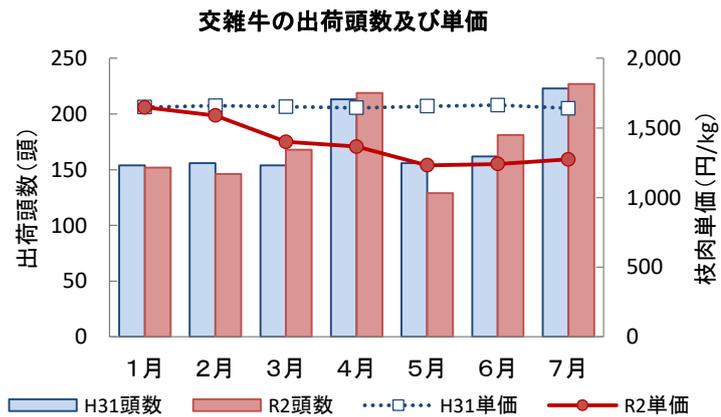
- ・和牛の飼養頭数が増加傾向にあることから、出荷頭数は前年よりも1～3割増加して推移している上、外食向けの需要が低下しており、7月の枝肉単価は対前年同月比で13%低下した。
- ・7月に入り、外食向けの需要が出てきているものの、動きはまだ鈍い。



※ 出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢A 4

イ 交雑牛（広島市中央卸売市場食肉市場）

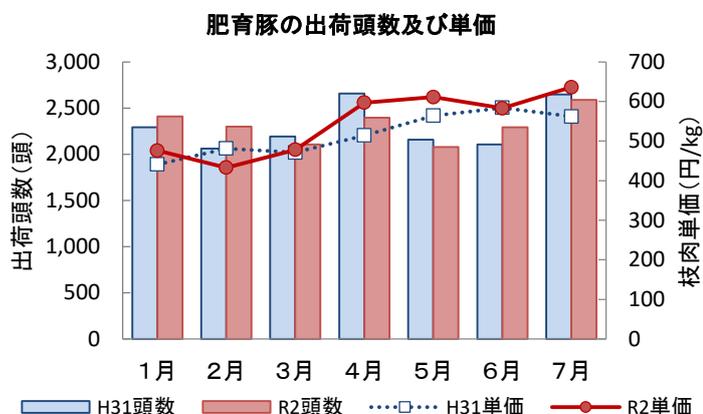
- ・交雑牛の出荷頭数は7月は前年並みとなっている。
- ・また、7月の枝肉単価は対前年同月比で22%低下した。



※ 出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢B 3

ウ 豚（広島市中央卸売市場：県内産）

- ・月により増減はあるが、出荷頭数は前年並みで推移している。
- ・7月の枝肉単価は量販店での需要が強く、前年同月比13%上昇している。



エ 鶏卵（全農ひろしま M）

- ・外出自粛による家庭での消費増加の影響で、量販店での需要が伸び、4月の取引単価は対前年同月比で29%上昇した。
- ・7月の取引単価は前年並みで推移している。

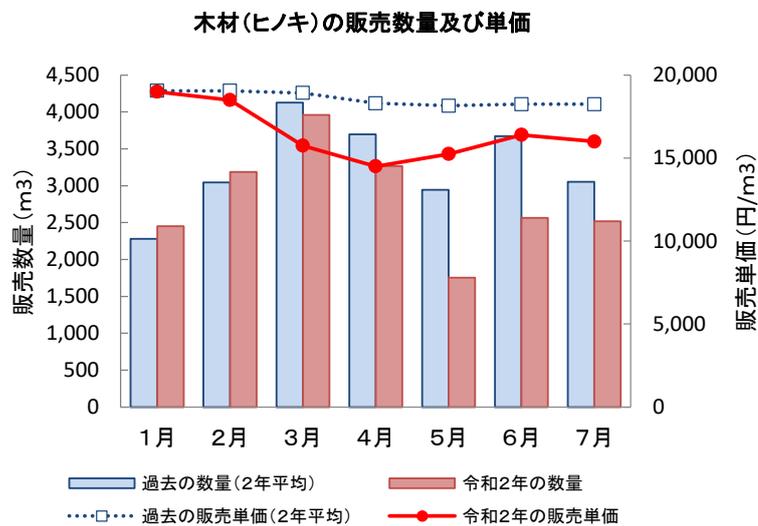
オ 牛乳

- ・3月は給食の中止に伴い、学校給食用牛乳からバター等加工向けに一部転換され、乳価が前月比で3%低下した。
- ・4月から5月は学校給食が再度休止されたが、その後、加工向けが減少し、休校の影響が出る前の2月並みの乳価に回復した。
- ・夏休み短縮により学校給食用牛乳の不足が懸念されたが、夏休みの期間や開始の時期が市町により分散したことなどから、原料の確保などに大きな影響は生じていない。

(3) 林業

ア 木材（広島県森林組合連合会三次木材共販所）

- ・景気の先行き不安や営業活動の制約などから住宅着工の遅れが出てきており、これにより、一部工場が減産している。
- ・このため、例年（過去2年平均）と比較して、販売数量が3月以降減少し、木材単価も1～2割程度低下している。



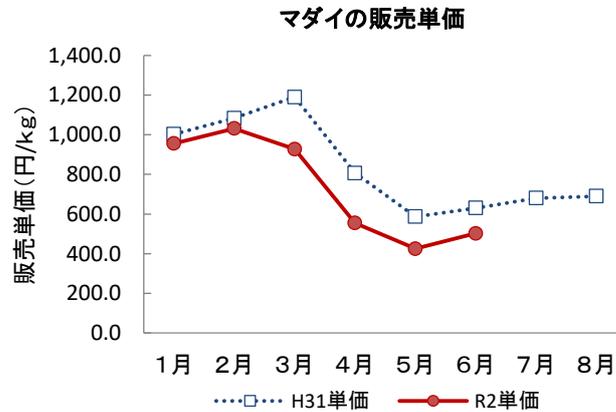
※単価はヒノキ：長さ 4m，直径 14～16 cm

(4) 水産業

飲食店需要の減少により低下していた、マダイ、オコゼ、キジハタなどの高級魚や、ハマチ（ブリ）などの単価は、広島市場において下落幅が縮小傾向にある。

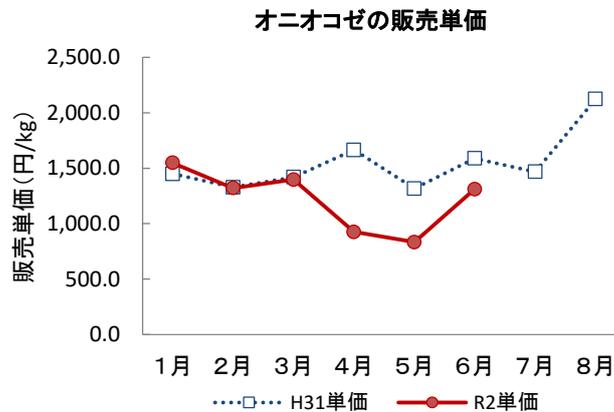
ア マダイ（広島市中央卸売市場：県内産）

- 販売単価は、3月以降下落傾向にあるが、6月には下落幅が縮小し、前年比で20%の低下となった。



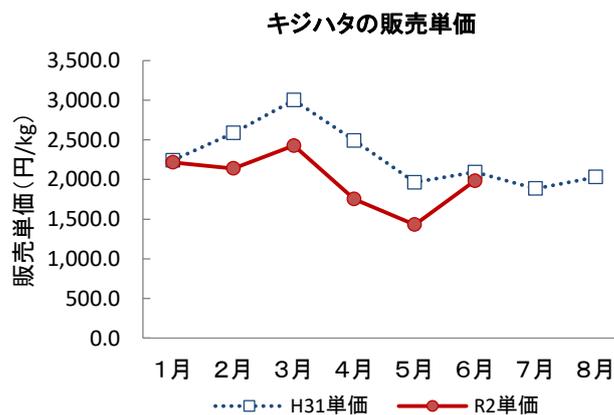
イ オニオコゼ（広島市中央卸売市場：県内産）

- 販売単価は、飲食需要の減少が顕著となった4月以降急落したが、6月は下落幅が縮小し、前年比で17%低下となった。



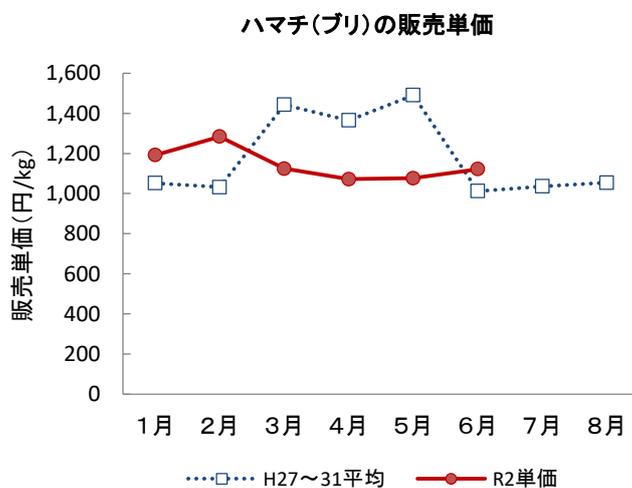
ウ キジハタ（広島市中央卸売市場：県内産）

- 販売単価は、飲食需要減が顕著となった4月以降更に落ち込んでいたが、6月は下落幅が縮小し、前年比で5%低下となった。



エ ハマチ（ブリ）（広島市中央卸売市場：県内産）

- ・販売単価は、3月以降は例年のような単価上昇が見られず5月は例年比で28%低下していたが、6月は平年並みとなった。
- ・6月の出荷量については、H27～31の6月の平均出荷量と比較して74%低下した。



- ※ 漁獲量は年変動が顕著であるため割愛した。
- ※ 出漁は減っていないため、更なる価格の下落が懸念される。

オ かき

（漁業災害特別対策資金の借入状況）

- ・昨年度の融資枠（1億円）を活用し、呉市、江田島市、東広島市の15名の生産者が融資を受けている。
- ・今年度の融資についても、借入手続きが開始され、広島市、東広島市の3名の生産者が融資を受けている。

（制度資金の償還猶予状況）

- ・漁業近代化資金等の既往借入金について、5名に対し償還猶予を承認している。

（採苗状況）

- ・本年度の採苗作業は、7月中旬から広島湾北部で開始されて順調に推移しており、現在、必要枚数の約7割が確保されている。

2 新型コロナウイルス感染症の影響に対する対応策

対 応 策 等	
資金	<p>(影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に花き・牛肉・かきなどの単価が低迷しており、所得の低下により資金繰り面での不安がある。 <p>(対応策) ※県ホームページに掲載し、生産者に周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農畜産業については、運転資金として日本政策金融公庫のセーフティネット資金やJAグループの営農支援資金の活用や、農業近代化資金等の制度資金の償還猶予措置について、市町、JAを通じて周知している。 ・水産業については、漁業近代化資金等制度資金の償還計画の変更、償還猶予について、市町、広島県信用漁業協同組合連合会を通じて、漁業者に周知している。 <p>また、新たに運転資金が必要なかき養殖業者に対しては、市町を通じて、災害特別対策資金の活用を周知している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業・木材産業については、林業者等に対して、セーフティネット資金等について、市町、広島県森林組合連合会、広島県木材組合連合会を通じて周知している。
労働力	<p>(影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、パート等雇用労働力の確保に一部で影響はあるが、経営上の大きな問題になっていない。外国人技能実習生については、引き続き出入国が難しい状況が継続した場合は影響が懸念される。 <p>(対応策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、他産業から就農への関心が高まることが予想されるため、独立就農を希望する方への実践型研修への誘導や、雇用就農を希望する方への農業法人等とのマッチングにより新規就農を支援する。 ・人手不足の解消を図るため、JAグループに対し、援農や就農に必要な研修を行うためのスマート農業機械等の整備を支援する。 ・林業については、市町に対して、森林組合等の雇用を維持・確保する観点から、森林環境譲与税の効果的な活用を依頼している。
販売	<p>(影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品を中心としたスーパーやインターネット販売、生協の売上が伸びている。 ・飲食店やホテルの消費については、回復傾向にあるものの前年同期と比べると低い状況となっている。 <p>(対応策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売に苦慮している花きや牛肉、かきなど県内農畜水産物等について、ECサイト（ひろしまモール）等を活用した販路拡大支援を実施している。 ・花きについては、業界団体による花の定額購入サービス（ロハスフラワー）の実施による新たなサプライチェーンの構築や、駅や公共施設への花の装飾等により、家庭やオフィスでの需要喚起を支援している。 ・県産農林水産物の流通を促し、生産を維持することを目的として、和牛肉、ブリ及びマダイの学校給食への提供を支援する。 ・外食産業のインバウンド需要回復に向け、衛生管理設備導入や店舗改装等を支援する。 ・県内食品事業者の輸出を維持・拡大するため、食品加工施設整備や衛生管理基準等の作成を支援する。 ・林業については、国による塀や柵等の建築物の外構部や公共施設等での木材利用促進の取組について、関係機関に周知している。